

ACTION!

学ぶことは、動くこと

福井工業大学 工学部建築土木工学科 吉田純一 教授

「小原ECOプロジェクト」古民家再生・修復で、 学生たちが変わり、限界集落の在り方も変える!

小原ECOプロジェクト発足
「最初は集落を維持したいという思いしかなかったんだけど、やり始めてみたら気づいたんだね、こはまたとない学生教育の場だったことに」

吉田純一教授が、勝山市小原の古民家再生・修復に取り組み始めたのは、歴史的建造物の調査で小原を訪れたことがきっかけだった。山の斜面に家と段々畑が広がる風景に、一瞬にして惹かれた。民家の造りも特徴的で学術的にも貴重だったが、住んでいる人は僅かで、住人を失った家は崩れかけていた。そこで、平成18年、地元の人たちと一緒に「小原ECOプロジェクト」を立ち上げ、その一環として、研究室で民家の修復を始めた。

またとない学生教育の場
「夏休みの間、研究室の学生たちを連れて小原に入ったんだけど、中には学校ではパツとしない子もいた。ところがそんな子が生き生きとして働いて、夏休みが終わったら卒業研究に取り組み姿勢ががらっと変わっていったんです」

これは、学生教育の場としても役に立つ。吉田教授は1年目にして実感した。「実際の現場で建築の勉強ができる。納期はないからじっくり学生にまかせられる。ものづくりの喜びも達成感もある。建築実践教育の場としてこんないい場所はない、ずっと続けたいと思います」

以来10年間、毎年夏休み期間中の約3週間、教員と15名ほどの学生たちが、小原で合宿しながら民家修復作業に汗を流してきた。

当初から大工技術の指導をしてくれた棟梁・中間眞佐博さんの存在も大きかった。「気になるところがあれば、朝食前からでも作業にかかる。それを見ていたら学生だつて呑気にしていられますよ。厳しいけど学生思いの人でね、夜はお酒を飲みながらいろんな話をしてくれる。学生たちは、中間さ

んに人間教育してもらったと思います」

研究室の学生以外でも希望者は誰でも参加できるようになり、今では1年次から続けて参加する学生も増えてきた。

小原に来る人を増やしたい

今年1月、小原ECOプロジェクトは、総務省主催の「平成27年度ふるさとづくり大賞」で、最高賞である内閣総理大臣賞を受賞した。

「僕ら楽しんでやってただけなのにね。まあ、楽しかったから10年続いたんだけど」

受賞で評価されたのは、小原の交流人口(村を訪れた人)を増やしたこと。修復した民家を使った田舎体験などのイベントも行い、海外から訪れる人も増えてきた。プロジェクト開始前は年間約350人だった交流人口が、今は1000人を超える。「廃村になっていたかもしれない小原を、僕たちが10年生き長らえさせた。小原ECOプロジェクトは、限界集落を維持していくひとつの方法ではあると思っています」

吉田教授には夢がある。小原に、誰でも気軽に立ち寄れる場を作ることだ。

「定年になったら週末は小原で過ごしたいんだよね。離村した人も集落外の人も集まれるような場所を作って、ここの食材を使ったピザとか熊肉料理とか出したら楽しいじゃない。冬は巨大なかまくらが作れるし、夏は家を吹き抜ける風が本当に気持ちいい。それを体験してほしいんです」



「小原ECOプロジェクト」内閣総理大臣賞の表彰式
平成28年3月 首相官邸にて。

